



みどりのきずな

平成24年9月1日発行 第18号

【緑区地域福祉計画基本理念】

『地域住民のきずなを深め、みんなが
手を結び合い、住みよいまちづくりを推進する』

—明るい社会を築いてきた高齢者のために—

—未来を築く子どもたちのために—

—障害者(児)が希望を持って地域に生き、働けるために—

編集:緑区地域福祉計画推進協議会広報部会

発行:緑区地域福祉計画推進協議会事務局

(緑保健福祉センター 高齢障害支援課内)

千葉市緑区鎌取町 226 番地 1

TEL:043(292)8142 FAX:043(292)8276

手紙から始まる絆の出会い —高齢者と児童・生徒の交流—

委員長 岡本 博幸

「ささえ合い え顔がつなぐ 人と人」(みつわ台南小3年渋谷翼くん)平成23年度福祉のまちづくり推進福祉体験標語、市社会福祉協議会長賞の作品です。渋谷くんの標語のように住みよい町は近隣・地域の方々の支え合いによって生まれてくるのです。福祉活動の原点はこの一点です。

新聞には毎日といってよいくらい高齢者の事故、火災、引きこもり、老々介護疲れ、孤独死等の記事が無い日はありません。悲しい出来事です。高齢者のなかには、家でひっそりと暮らしている方も多いと思います。なかでも孤独な生活、これほど辛い生活はないと思います。辛いというより苦しいかもしれません。話す相手がいないからです。そして、ひっそりと亡くなる方が年3万人と報道されています。この状態を救ってくれるのは、「笑顔のある、向こう三軒両隣」"ときにはお節介を焼こう"という絆社会ではないでしょうか。

緑区地域福祉計画推進協議会では、「子ども(小・中)と施設の高齢者と手紙によるふれあい」を企画し推進しています。目的は「交流によって共に生きる喜びを伝えあい、夢を語り合える場の実現」を目指しているものです。

7月に小谷小、土気中・泉谷中の先生方と千寿苑、ときわ園、誉田園、グリーンユーワ、けやき園、ほんだくらぶの施設の方々との意見交流会を開催いたしました。

学校側からは、①福祉教育の一環として大変良い機会。②核家族化の中で高齢者との触れ合いは素晴らしい出会い。③福祉教育の充実につながる。④書く活動の機会が生まれる。

施設側からは、①高齢者の方が喜んで参加し、手紙の交流を待ち望んでいる。②普段の生活にない新しい刺激が生まれた。③生活に張りが生まれてきたようだ。④出来たら直接ふれあいの場ができれば良い。等々の意見交換がなされました。

活動はまだ始まったものであり、これから充実させていかなければならない事業なのです。学校・施設側も積極的に参加したいというご意見でしたのでこれから楽しみです。

主題の発端は、グリーンユーワ施設参観に行ったとき「陶(すえ)英子さん94歳」とお会いしたときがそのきっかけです。陶さんは、群馬県島村の公立保育園園長を24年勤務した方で、その間島村小学校齋藤喜博校長先生の教育感に共鳴し小学校で授業をさせていただく間柄だったそうです。陶さんは、子どもたちから生きる喜びと気力をいただいたことが人生の指針となったということでした。「今一度子どもたちとのふれあいの場が持てたらこんなうれしいことはない」ということでした。この一言が「手紙で始まる絆の出会い」となったのです。

高齢化が進む現在、社会は益々無縁化状態が浸透していると言われています。施設に入っていくと、家にいようと、孤独な生活では幸せは生まれません。幸せは家族の絆であり、人と人との絆であり、語らいであり、分かち合いではないでしょうか。標語の様に笑顔でつなぐ有縁社会が今求められていると思います。小さな活動ですが、大きな期待をもって推進していきたいと思えます。



誉田地区

◆平山小学校と千葉県立聾(ろう)学校との交流

昭和56年から始まった交流活動も30年以上の歴史を積み上げています。毎年、交代でどちらかの学校に校長以下の関係職員全員が一同会して集まり、互いの紹介をした後、年間の活動計画を学年ごとに立てる。そして、学年間の活動を両校のどちらかに集まり、楽しい交流を行うものです。

左の写真は、平山小学校2年生が聾(ろう)学校を訪問しグループに分かれて遊んでいる場面です。



2年生の交流

わずか3時間程度ではありますが、子どもたち同士すぐに仲良しになり、友情を育んでいます。

11月末には平山小学校全児童と聾(ろう)学校小学部全児童と関係職員全員が泉谷公園に集まり、一緒に全校遠足活動と年度の交流のまとめを行い、来年度を約束し、終了します。

平山小学校児童も高学年になると、キニューサインや軽い手話もできるようになっているのは1年生から積み上げた成果でしょう。今後也更に活発な交流活動になるよう地域の方も応援して欲しいと思っています。

◆けやき園のお年寄りの方との交流

平山小学校では、毎年5年生が学区内の介護老人保健施設のけやき園を訪問し、お年寄りの方との交流をさせていただいております。人権尊重教育やボランティア教育の一環として、活動しています。

今年も5月10日に1回目の交流会が行われました。施設の見学や音楽の演奏、お話等の交流をしてきました。

子どもたちにとつて、とても貴重な時間となりました。

【子どもの感想】

歌を発表していたとき、泣いていたおばあちゃんがいて、歌ってよかったなと思いました。お話をするとき、ドキドキしました。私から話したら答えてくれたけど、最初に話したことをもう1回聞かれたので、これはしかたないのだなと思いました。けやき園の人たちは、お年寄りの耳の近くで話していたので、そうした方が聞こえやすいのだなと思いました。今度は大きな声で、はっきりとあいさつをしたいです。それから手紙を書いたらいいと思います。昔のことは覚えていると教えてもらったので、今度行くときは昔のことを聞いてみたいです。



今年はおと2回の交流会を予定していますが、心豊かに成長していくとともに、地域の一員として活躍していける大人に成長してくれることを願っています。



土気地区

◆ボランティア研修と交流会

社協土気地区部会では、ふれあい食事サーブス・いきいきサロン・散歩クラブ・子育てサロンの行つていて、その活動をボランティアが支援しています。

ボランティアは、150人が登録されています。ボランティアの方が元気で楽しく活動が続けていただけるように、ボランティア委員会では年2回(7月と2月)、研修と交流会を行つています。今年も7月11日(水)、土気公民館で約70人の参加者が「救急・救命法」の講習を受けました。

「AED機械操作・胸骨圧迫要領」等の実技を緑区消防署の7人の協力で7グループに分かれ、あたかも実践さながらの真剣な研修でした。救急車が来るまでの救急救命がいかに重要であるかを知り、実感しました。



心肺蘇生を学ぶ



研修の後は、グループごとに活動の楽しさ、苦勞を話し合い、交流をはかることができ、内容の充実した研修・交流会になりました。

お互いの活動を情報交換



椎名地区

◆りっぱに育っているよ

地域の宝

椎名地区は、過疎ではありませんが、緑豊かな人情あふれた地域です。地域全体で、次世代を担う子どもたちとの「ふれあい」を大切に、いきものをいつくしみ、ものづくりの大変さが分かる「思いやり」の心を持った人に育つよう、見守っています。

食育支援

田植えに挑戦



さあ刈ろう よく実った



食べよう 太巻き寿司



おゆみ野地区

◆戦争体験を語る会

おゆみ野女性の会主催の第7回目の戦争体験を語る会が7月7日に開催されました。

七夕空襲に合わせて開催していたこの会が、今年は七夕の日に開催できませんでした。実際に千葉で空襲を体験した方も参加され、地元の方の体験談を聞く内に、当時の体験を是非参加した子どもたちに伝えたいという気持ちがあったのでしようか、体験した七夕空襲についてお話されました。

今回は初めて地元の方に体験談をお聞きしましたが、地元を知る意味では興味深い内容でした。また今回は語り部のお話を聞く企画でしたが、それぞれがご自分の体験を話しておきたいという想いを感じ取った会でした。



◆おゆみ野地区円卓会議

おゆみ野地区コミュニティづくり懇談会とおゆみ野の森を育てる会と千葉市の協同で第1回円卓会議が7月21日に鎌取コミュニティセンターで開催されました。地域における諸課題を、多様な主体が集まって話し合いをし解決策を生み出す会議です。対等な立場で合意形成を行いながら課題解決に取り組む仕組みのことですが、緑区のホームページに詳しく掲載されています。

今回は9月15日、10月13日、11月17日のいずれも土曜日の午後1時半からの開催です。円卓ってなんだろうと思う方でも傍聴席でご参加頂くことも可能です。今年のテーマは、おゆみ野の宝物「緑」です。

おゆみ野地区の円卓会議がはじまりました!



